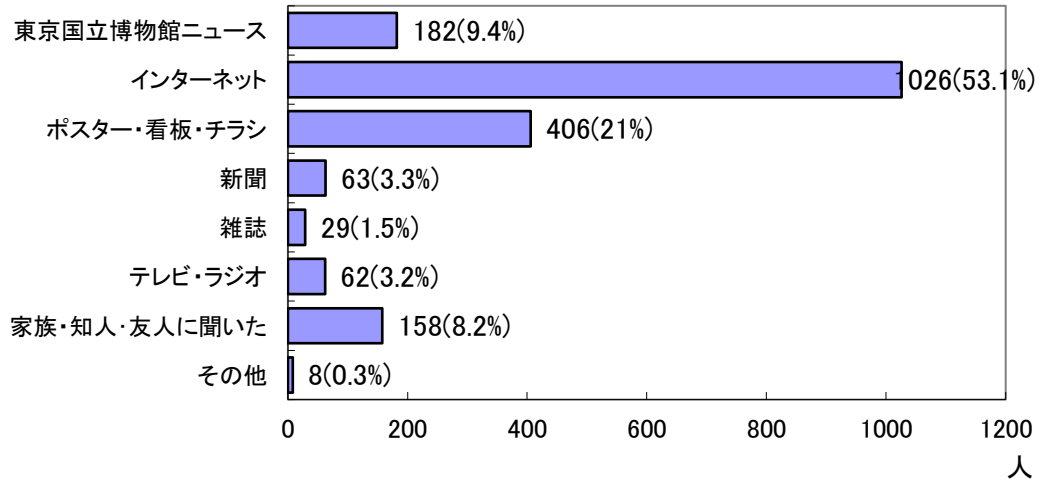
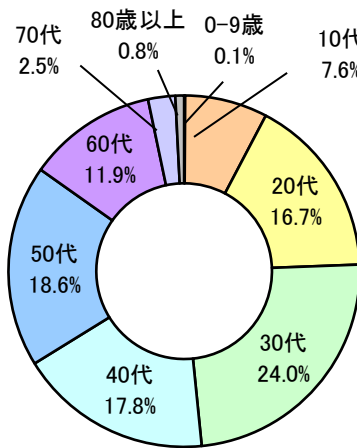


前田育徳会創立百周年記念 特別展「百万石！加賀前田家」

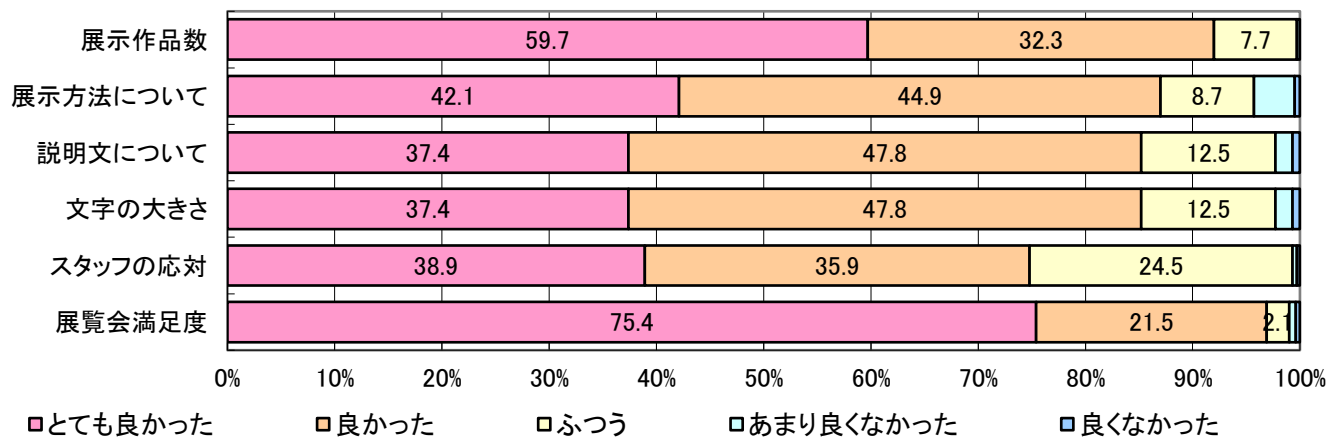
アンケート集計結果

令和8年4月14日（火）～6月7日（日）（50日間）
総入館者数：203,755人
回答者数：1,544人

①アンケート回答年齢層 ②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・展示数の多さ、多彩さ、質が高く大ボリュームで満足感が高かった。
- ・文化財を保存し後世に残していくことの意義や重要さを感じることができた。
- ・前田家のすごさがわかった。
- ・（会期終盤）混雑していたので、人込みの中や後方からでも見やすい展示や解説パネルだとありがたい。
- ・コラボレーション企画があったことで来館の動機になった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品数	0.3	0.0
展示方法	3.8	0.5
説明文	1.6	0.7
文字サイズ	1.6	0.7
スタッフの対応	0.4	0.3
展覧会の満足度	0.6	0.4

(%)

本展は、前田育徳会が2026年に百周年を迎えることを記念して、加賀前田家歴代当主の事績を振り返るとともに、旧蔵品を含めた加賀前田家伝来品の数々を紹介し、百万石の城下で花開いた技術と造形、知識と思想を通じて、今に続く加賀文化の美の真髄に迫るものです。前田育徳会収蔵品の大規模な展覧会は、東京では半世紀以上ぶりとなり、本展は同家収蔵品を一挙に公開する貴重な機会でもありました。初代利家ゆかりの品々から第3代利常の蒐集品、そして5代綱紀の蒐集した豊富な典籍や工芸標本「百工比照」ほか、文武ともに圧倒的な質と量、そして往時の輝きを残す非常に優れた保存状態の品々は、来場されたお客様にとっても、博物館事業や文化財保存の境遇が危ぶまれる近年において改めて文化芸術の保存・継承の意義と重要さを訴えかけるものとなり、大きな反響がありました。そして16代当主利為により育徳財団（現在の前田育徳会）の設立された際の許可書も、近代における文化事業の象徴として注目を浴びました。

優品の数々に絶賛のお声が集まったほか、その真摯に行われた文化財管理、代々引き継がれた事業に想いを馳せるご感想も多数寄せられ、96.8%と当館の直近数年間の特別展としても非常に高い満足度となりました。ただ、多数のご来館者をお迎えした一方で、混雑下でのより快適な観覧環境、また解説文の視認性については課題となるご意見も見受けられました。

今回のアンケート結果も参考に、引き続きよりよい展示および観覧環境の提供に努めてまいります。